

高齢者見守り連絡所設立に対する本市の認識は

問 高齢者の保護や地域全体でのさりげない見守りのため、高齢者見守り連絡所を本市に設立する考えは。

答 福祉事務所長／地域の住民同士が高齢者の様子に注意を払い、見守っていく地域共生の意識は高齢者の安心・安全を確保し、社会的孤立を防ぐ上で重要であり、本市では、あんしん見守りネットワーク協力事業所に登録された店舗等による地域での見守り活動を推進している。高齢者見守り連絡所の取組は、地域住民が主体的に関わる効果的な活動であると認識していることから、今後先

進事例等を調査研究していく。

問 民生委員・児童委員の活動を支える体制の強化策は。

答 福祉事務所長／本市では複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援を行うため重層的支援体制整備事業に着手しており、委員では対応困難なニーズを関係機関等へ迅速につなげる体制を強化していくことで、委員の活動の組織的なバックアップ体制としても機能するものと認識している。今後も制度の持続可能性と効果的な支援を確保し、引き続き地域福祉の向上に努めていく。

佐野 博一



文化芸術のまち沼津の実現のため振興公社の在り方を見直す考えは

問 現在、市民文化センターの指定管理業務を担っている沼津市振興公社について、指定管理者としての在り方に対する本市の認識は。

答 政策推進部長／振興公社は、長年市民ニーズに沿った運営を行っており、本市の芸術文化の振興等を推進する能力を有すると評価している。指定管理者の指定に当たっては、事業計画書に基づく管理を安定して行う能力を有すること、施設の設定目的に基づいた事業の実施及び施設の管理運営ができること、市民の文化振興に資する事業が実現できること

等が高く評価されている。さらに、駐車場運営の収益を文化センターの芸術文化事業の経費に充当することで、一般の営利団体よりも安価で公益性の高い事業の実施を実現していることから、振興公社の在り方は適切であると考えている。一方、芸術性や市民満足度を重視した公益性の高い事業を実施していく体制を維持しつつ、時代の潮流の変化を捉え対応していくことも必要であることから、他市の状況を注視しつつ、芸術文化に精通する人材の登用など様々な可能性を調査研究していく。

高橋 達也



南海トラフ巨大地震への備えについて本市の取組は

問 南海トラフ巨大地震への備えについて、①重層的な避難支援計画の整備に対する認識は。②緊急物資の備蓄促進の取組は。

答 福祉事務所長／①重層的な避難支援計画は、一人一人の状況に応じ、災害発生時に、誰が支援し、どこへ避難するのか、また、その一連の流れの中でどのような配慮が必要であるかといった事項を明確にするものである。避難をより安全、確実にする計画の整備に向けては、行政だけでなく、民生委員・児童委員をはじめ、自治会や福祉サービス事業者等

の協力を得ることが重要であると認識している。

危機管理監／②現在、備蓄計画に基づき、緊急物資の整備を進めており、県の第四次地震被害想定による想定避難者数三日分の食料の備蓄を完了しているほか、市内各所に合計二百八十五基の耐震性貯水槽を整備し、飲料水の確保を図っている。また、要配慮者等が使用することを想定し、各避難所に段ボールベッドを二十基ほど配備しているが、今後も保管場所や避難所の実情を考慮し、追加配備について検討していく。

川口 慶



H P Vワクチン接種の安全性に関する本市の認識は

問 H P Vワクチン接種に伴う副反応について、①他のワクチンと比較した重篤副反応疑いの頻度に対する認識は。②情報提供の取組は。

答 市民福祉部長／①令和六年度、本市においてH P Vワクチンの副反応疑いの報告事例はないが、厚生労働省の報告によると、全国における百万回接種当たりの重篤副反応疑いの件数は、M Rワクチンが十六・二件、四種混合ワクチンが二十一・七件、H P Vワクチンが百四十九・八件であり、H P Vワクチンの副反応疑いの頻度は、M Rワクチンの約九

倍、四種混合ワクチンの約七倍となっている。一般的にワクチン接種の副反応は不可避免的に発生するものであり、それぞれの接種状況が異なることから、その関係性について判断することは難しいものと認識している。②本市では、自らの意思で接種することに対する認識を高めてもらうため、市ホームページや受診案内通知により、H P Vワクチンに関する接種の効果やリスクについて正確な情報提供を行っている。今後も、国・県及び医療機関と連携し、正確で丁寧な情報提供に努めていく。

山下 富美子

